

## 寄稿

### 専任教員としての抱負

秋田大学評価・IRセンター助教 細川 慎二

令和2年10月1日付けで評価・IRセンターの助教として着任しました細川慎二でございます。筆者は、学生時代に本学で医工連携の研究に携わり「データ解析」手法を学び、また前職では医療機器メーカーで「品質管理手法」や「課題分析」、「PDCA」を学びながら社内設備の設計・開発・導入などを行う業務に携わっておりました。

さて、社会情勢が著しく変化しておりますが、大学全入時代や基盤的な高等教育予算の縮減といった状況に大学が対応していくためには、これまで以上に内部質保証や意思決定のための「データの見える化」が必要になっていると感じております。その中で、主にIRに関する分析担当として着任した抱負を述べさせていただきます。

筆者は、これまでデータ解析や課題分析などを学んできましたが、その経験を生かせるよう大学に蓄積されている教育や研究に関する学内の各種データ、また国や地方公共団体、さらに学会や文献サイトなどから収集した学外データを、単にまとめて提示するだけではなく、分析に資する情報に変換することで、本学の管理運営の高度化や教育の質保証向上に貢献したいと考えております。

具体的には、まず研究IRに関して、本学の研究分野の強みを可視化するため、科研費の審査区分ごとの申請・採択などの状況と掲載論文などに関するデータ解析を進めて相関性について検討し、本学の強みを個性としてさらに伸ばせるよう貢献したいと考えております。また、教学IRに関して、教育の質保証では、本学のモットーである「学生第一」に貢献するため、学業成績の推移や履修動向の解析、学生アンケートや企業（雇用者）アンケートなどの分析を進め、他大学と比較した結果から改善を図り、より一層社会で必要とされる人材育成に繋げられればと考えております。さらに、運営IRに関して、大学情報データベースのデータや財務情報を活用し、大学運営の効率化が図れるような分析を進めていきたいと考えております。これらを恒常的に行うため、これまで学んだPDCA活用のノウハウや学内外関係者との連携や意見交換なども積極的に行い、大学の発展に貢献したいと考えております。

一方、研究では、統計学やデータサイエンスを活用した各種データの分析方法について研究し、論文掲載や科研費の獲得などを目指していきたいと思っております。

着任して日が浅く、また大学業務における経験が少ないため、浅学の身ではございますが、新しい環境のもと業務や研究に一層精励いたす所存でございます。何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。